

ステイホーム中の生活や気持ちの変化をつづった一冊が Kindle 版で登場
お母さん白書 2020「コロナ禍を生きる母たちの記録 マザーリポート ～1205人のアンケート報告」
コロナ禍に、母たちは何を思い、どう過ごしたのか。アフターコロナ社会をどう生きるのか。



「お母さんの笑顔」をテーマに、「お母さん業界新聞」の発行ほかささまざまな子育て支援に取り組むお母さん大学（株式会社お母さん業界新聞社、本社横浜市、代表藤本裕子）は、10月1日、コロナ禍にある母親たちの思いや生活などをまとめた「コロナ禍に生きる母たちの記録 マザーリポート～1205人のアンケート報告」Kindle版を出版した。

◆本の内容紹介

新型コロナウイルス感染症が伝えられた2月から、緊急事態宣言解除後の7月までの母たちの思いを「お母さん白書2020」としてまとめたもの。35人のレポート（手記）と、1205人のアンケートには、母たちの思いや生活がリアルに表現されている。

コロナ禍を、母たちはどう過ごしたのか。アフターコロナ社会を、母としてどう生きるのか…。

ある者は小さな子どもを抱え不安になりながら、ある者は多感な子どもの対応に悩みながら、またある者は仕事と家庭の両立に苦心しながら、懸命に子どもや家庭を守ろうとする母たちの姿。はじめは不安や不満ばかりを口にしていた母たちが、次第に子どもたちの笑顔に助けられ、「おうち時間」や「母時間」を楽しもうとする様子がストレートに伝わってきて興味深い。

また、夏を過ぎても落ち着いたコロナ禍にいて、学校や地域、ひいては国や世界の動向までを冷静に見つめる母たち。10年後、20年後、あるいは50年後、100年後の子どもたちの未来を思い、この先の生き方や在り方を問う、母たちの強さやたくましさには感動すら覚える。歴史に刻まれるだろう「コロナ禍」に在る「母たちの記録」として、読んでおきたい、残しておきたい一冊である。

お母さんを笑顔にするお母さん大学の活動は、多くのお母さんの共感を得て広がっている。「お母さん白書2020」は「お母さんとコロナ」にフォーカスしたものになったが、今後は毎年テーマを変えて調査、研究をしていく予定。

◆コンテンツ

35人のマザーリポート/1205人のお母さんアンケート/百万母力 藤本裕子学長コラム/お母さん大学とは

◆概要

ページ数：207ページ 発行：2020年10月1日 Kindle価格：800円

発行：お母さん大学 発行人：藤本裕子（お母さん大学学長） 制作：株式会社お母さん業界新聞社

マザーリポート制作委員会：池田彩、宇賀佐智子、植地宏美、田村由佳利、安達真依、智原美沙

◆発行人 藤本裕子コメント

コロナ自粛中は、母たちのたたかひの日々でもあった。わが子の未来をつくるためにも、母として今、この世に起きている現実を言葉にし、記録する必要があるのではと、これを企画した。マザーレポートは、コロナ禍を経験した母たちの記録であり、アフターコロナ社会を生きる、母たちの覚悟。緊急アンケートを実施した一番の理由は、お母さんたちの思いを社会に届けたかったから。そして、コロナ禍で揺れている今こそ、母である自分に向き合い、しっかりと未来を見つめようという提案。もう一つは、「みんなでがんばろう！ 笑顔でつながろう！」という、お母さん業界新聞社から、お母さんたちへのメッセージでもあった。多くのお母さんたちが、母として共感し、応えてくれたことになる。

◆アンケート結果の一部

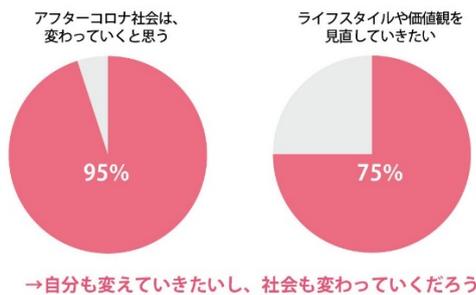
コロナ禍のお母さん 緊急アンケート
(実施概要)

実施期間 2020年7月1日～7月14日
 方法 WEBアンケート
 有効回答数 1,205(人)
 対象者 未成年の子どもを持つお母さん
 年代 10代～50代
 居住地 北海道～沖縄

コロナ禍のお母さん 緊急アンケート



アフターコロナ時代



アンケート トピックス 母としてのコメント

- 子どもの成長を感じられた
 - 新しいことに挑戦した
 - 自分に向き合うことができた
 - 大切なものが見えてきた
 - ネット社会の弊害、メディアリテラシー
 - 身近な幸せに気づくことができた
 - 人への思いやつながりの大切さを実感
 - 危機管理能力、未来を生き抜く力を
 - 生き方や価値観を見直す機会に
 - 遊びや家事も工夫して楽しめた
 - 当たり前ではないことに気づいた
 - 自分で考え選択することが大切
- 自分がこうありたい
 =子どもにもこうあってほしい
 子どもへの愛にあふれた結果

◆Amazon Kindle レビュー

・今まで「コロナでよかった」という言葉には正直抵抗があったが、読み終えてみて、本当に「コロナ様様」のように思えてきた。だって本当にそうだし、そうとらえたほうがこの先断然幸せになれるよねと思えてきた。

・最初は誰もが戸惑ったはずけれど、家事育児は待ったなし。戸惑い悩みながらも、毎日子どもたちのためにご飯を作り、家事をこなす。そんな日々の中で感じたことや気づいたこと、それらが飾らない言葉で綴られている。どんな専門家の言葉よりも、重くて尊いものだと思う。

・母の思いとは、時に身の回り半径数メートルのことであり、時に宇宙の果てまで広がることであると感じた。今でなければ書けない思いをここまで集めたのはすごい。読み応え十分。

本書の紹介：<https://www.okaasan.net/oshirase/news/59340/>

Kindle ストア：<https://www.amazon.co.jp/dp/B08KJK76TW>



【本件に関するお問い合わせ】

お母さん大学 (お母さん業界新聞社) 本部 青柳真美

メール：info@30ans.com TEL：045-444-4030 090-1456-2536 (青柳)

住所：〒221-0055 神奈川県横浜市神奈川区大野町 1-8-406 <https://www.okaasan.net/>